

オートバイの世界第1号は、自動車が開発される2年前の1883（明治16）年にドイツのダイムラーが発明したガソリン機関。エンジンは4サイクル単気筒、排気量が260cc、時速は6〜12kmでした。

日本には明

治35年、横浜に見本車が輸入され、翌年に石川商会がアメリカ製乾電池装置付オートバイ2台を輸入して商品化しました。

国産1号の製造者は、明治41年に

オートバイ誕生物語

岡山の山羽虎雄氏、明治42年に関西の島津檜蔵氏の2説があります。当時の始動は、勢いよく車体を押し出すと、エンジンが始動し、飛び乗るというものでした。大正3年に宮田

製作所がアサヒ号を製作し、大隈総理大臣の警

護用として使われました。昭和6年には日本ハーレー・ダビットソンが設立され、本格的な国産オートバイの時代が訪れました。



交通安全10メモ